

場所	プロシージャ・関数名	目的	引数（型）	返り値（型）または実行内容	実行例	実行結果	実行結果の意味	補足
Module1	getSheetRow	IDをもとに、「一覧1」「一覧2」「一覧3」のいずれのシートの何行目に遅刻回数を記録するか判定します。	ID（String）	{ シート名, 行番号 }（String, Long）	getSheetRow("1A12")	{ "一覧1", 14 }	IDが1A12の人の遅刻回数は「一覧1」シートの「14行目」に記録されます。	結果は配列で返します。判定できない場合は{"none",0}を返します。
Module1	getCol	学期の数字をもとに、「一覧1」「一覧2」「一覧3」の何列目に遅刻回数を記録するか判定します。	学期（Long）	列番号（Long）	getCol(3)	7	3学期の遅刻回数（累計）は一覧x（xは1,2,3のどれか）シートの「7列目」に記録されま	判定できない場合は0を返します。
Module1	getGrade	IDをもとに、学年を調べます。	ID（String）	学年（Long）	getGrade("2B24")	2	IDが「2B24」の人の学年は「2」です。	
Module1	getClass	IDをもとに、組を調べます。	ID（String）	クラス名（String）	getClass("2B24")	B	IDが「2B24」の人の組は「B」です。	
Module1	getNumber	IDをもとに、出席番号を調べます。	ID（String）	出席番号（Long）	getNumber("2B24")	24	IDが「2B24」の人の出席番号は「24」です。	
Module1	showUserForm1	UserForm1（遅刻入力フォーム）を表示します。	なし	遅刻入力フォームを表示				
Module1	showUserForm2	UserForm2（遅刻絞り込み）を表示します。	なし	遅刻絞り込みフォームを表示				
Module1	showUserForm3	UserForm3（工事中）を表示します。	なし	UserForm3を表示				
Module1	showUserForm4	UserForm4（初期設定）を表示します。	なし	UserForm4（初期設定）を表示				
Module1	changeCount	IDと遅刻の情報をもとに、遅刻回数を変更します	ID（String）, 学期（Long）, 遅刻種類（String）, 増減数（Long）	IDの該当部分の遅刻回数を変更します。	changeCount("1A12", 3, "予鈴遅刻", 1)	一覧1シート14行目S列の数（1A12の人の3学期予鈴遅刻回数）に1が足される	IDが「1A12」の人の「3」学期「予鈴遅刻」回数が「1増加」します。	
Module1	clearCards	遅刻者カードの入力情報をクリアします。	なし	遅刻者カードの入力情報をクリア				
Module1	getCount	IDをもとに、遅刻回数を調べます。	ID（String）	{ 1学期遅刻回数, 1学期予鈴遅刻回数, 2学期遅刻回数, 2学期予鈴遅刻回数, 3学期遅刻回数, 3学期予鈴遅刻回数 }（Long）	getCount("1A12")	{ 7, 3, 4, 1, 1, 2 }	IDが「1A12」の人の遅刻は、「1学期遅刻7回、1学期予鈴遅刻3回、2学期遅刻4回、2学期予鈴遅刻1回、3学期遅刻1回、3学期予鈴遅刻2回」です。	遅刻記録シートの情報を最初から最後まで全て数えて計上します。正確ですが、遅刻記録が数千件となると時間がかかる場合もあります。
Module1	splitId	IDを学年・組・出席番号に分けます。	ID（String）	{ 学年, 組, 番号 }（Long, String, Long）	splitId("1A12")	{ 1, "A", 12 }		
Module1	getName	IDをもとに、名前を調べます。	ID（String）	名前（String）	getName("1A12")	"静岡 富士雄"	IDが「1A12」の人の名前は「静岡 富士雄」です。	姓と名を半角スペースを挟んでつなげて返します。
Module1	getTotal	IDをもとに、学期の遅刻回数を調べます。	ID（String）, 学期（Long）	{ 学期遅刻累計数, 学期遅刻回数, 学期予鈴遅刻回数, 学期遅刻カウント }（Long）	getTotal("1A12", 3)	{ 11, 3, 8, 6 }	IDが「1A12」の人の3学期遅刻は、累計11回、遅刻3回、予鈴遅刻8回、遅刻カウントが6回です。	一覧xのシートの情報を取得して返します。
Module1	validateIdTerm	IDと学期が有効であるか調べます。	ID（String）, 学期（Long）	True または False（Boolean）	validateIdTerm("9A01", 4)	False	IDが「9A01」の人の4学期の情報はありません。（IDか学期のどちらか一方、または両方が無効です。）	
Module1	validateId	IDが有効であるか（IDをもとに名前を取得できるか）調べます。	ID（String）	True または False（Boolean）	validateId("1A12")	True	IDが「1A12」は有効です。名前を参照できます。	
Module1	validateTerm	学期が有効であるか調べます。	学期（Long）	True または False（Boolean）	validateTerm(0)	False	「0」学期は無効です。	
Module1	getTerm	日付をもとに、何学期かを調べます。	日付（Date）	学期の数字（Long）	getTerm(2021/1/9)	3	「2021年1月9日」は「3」学期です。	判定できない場合は0を返します。
Module1	getStartEnd	学期の数字をもとに、学期の開始日・終了日を返します。	学期（Long）	{ 学期の開始日, 学期の終了日 }	getStartEnd(1)	{ 2020/4/8, 2020/7/20 }	「1」学期の開始日は「2020年4月8日」、終了日は「2020年7月20日」です。	設定シートのデータを取得して返します。
Module1	getCoach	学年・組をもとに、担任名を調べます。	学年（Long）, 組（String）	担任名（String）	getCoach(1, "A")	"伊勢"	「1」年「A」組の担任は「伊勢」です。	設定シートのデータを取得して返します。
Module1	getCoachById	IDをもとに、担任名を調べます。	ID（String）	担任名（String）	getCoach("1A12")	"伊勢"	IDが「1A12」の人の担任は「伊勢」です。	設定シートのデータを取得して返します。
Module1	isCounted	遅刻種類をもとに、遅刻回数として計上するかどうか判定します。	遅刻種類（String）	True または False（Boolean）	isCounted("延着等")	False	遅刻種類が「延着等」の場合は遅刻としてカウントしないため「False」になります。	
Module1	isYorei	遅刻種類をもとに、予鈴遅刻（教務上の遅刻にはならないが、遅刻カウントには含める遅刻）であるか調べます。	遅刻種類（String）	True または False（Boolean）	isYorei("遅刻")	False	遅刻種類が「遅刻」である場合は予鈴遅刻ではないため「False」になります。	

場所	プロシージャ・関数名	目的	引数（型）	返り値（型）または実行内容	実行例	実行結果	実行結果の意味	補足
Module2	printCard	遅刻者カードを印刷します。	なし					
Module2	PrintActiveSheet	アクティブシートを印刷します。	なし					
Module2	selectLatestRecord	遅刻記録の最新のものを選択します。	なし					
Module2	filterClear	遅刻記録の絞り込みを解除します。	なし	遅刻記録を全て表示				
Module2	filterToday	遅刻記録シートにて当日分の遅刻記録だけを表示します。	なし	遅刻記録を当日分だけに絞り込んで表示				
Module2	deleteRecord	遅刻記録を削除します。	なし	削除したい遅刻記録のある行のセルを選択して実行すると、遅刻記録が削除され、一覧xシートの回数も減少				

場所	プロシージャ・関数名	目的	引数（型）	返り値（型）または実行内容	実行例	実行結果	実行結果の意味	補足
Module3	filterList	一覧xのシートにて、遅刻カウントの数によって一覧を絞り込みます。	学年（Long）, 学期（Long）, 遅刻カウント（Long）	指定した学年・学期の記録のうち、遅刻カウントの値が指定した以上のものだけをフィルターして表示	fileterList(2, 3, 5)	「2」年の一覧で、「3」学期の遅刻カウントが「5」以上の記録だけが表示される。	「2」年の一覧（一覧2のデータ）のうち、「3」学期の遅刻カウントが「5」以上の記録だけが表示される。	学年の指定がない場合は「一覧x」のアクティブなシートで実行されます。
Module3	filterListClear	一覧xのシートにて、フィルターを解除します。	なし					
Module3	recalculate	遅刻記録のデータをもとに遅刻一覧の回数を数え直します。	なし	遅刻記録のデータをもとに遅刻一覧の回数を再集計して更新				遅刻記録シートの情報を最初から最後まで全て数えて全員分計上します。遅刻記録が数千件となると時間がかかる場合もあります。
Module3	uf2DayClear	UserForm2（遅刻記録の絞り込みフォーム）の日をクリアします。	なし					
Module3	uf2PersonClear	遅刻記録の絞り込みフォームの学年・組・出席番号をクリアします。	なし					
Module3	uf2GradeClear	遅刻記録の絞り込みフォームの学年をクリアします。	なし					
Module3	uf2TypeClear	遅刻記録の絞り込みフォームの遅刻種類をクリアします。	なし					
Module3	uf2CounterClear	遅刻記録の絞り込みフォームの遅刻カウントをクリアします。	なし					
Module3	uf2ReasonClear	遅刻記録の絞り込みフォームの遅刻理由をクリアします。	なし					
Module3	uf2Reset	遅刻記録の絞り込みフォームの入力内容を全てクリアします。	なし					
Module3	clearNameLists	名簿シートの入力内容を全てクリアします。	なし	名簿1・名簿2・名簿3のシートの組・番号・姓・名のデータを全て削除				年度当初の初期化に使います。
Module3	clearLists	一覧xのシートにある遅刻回数・遅刻カウントの修正値を全てクリアします。	なし	名簿1・名簿2・名簿3のシートの修正の値を全て削除				年度当初の初期化に使います。
Module3	clearRecords	遅刻記録シートにある遅刻記録を全てクリアします。	なし					年度当初の初期化に使います。
Module3	initialize	ファイルを初期化します。	なし	遅刻記録・遅刻一覧の情報・名簿を全て削除				年度当初の初期化に使います。

場所	プロシージャ・関数名	目的	引数（型）	返り値（型）または実行内容	実行例	実行結果	実行結果の意味	補足
Sheet3	Worksheet_Activate	一覧1シートの名前のない行を非表示にするとともにシートの保護をします。	なし					シートを開いたときに実行します。
Sheet4	Worksheet_Activate	一覧2シートの名前のない行を非表示にするとともにシートの保護をします。	なし					シートを開いたときに実行します。
Sheet5	Worksheet_Activate	一覧3シートの名前のない行を非表示にするとともにシートの保護をします。	なし					シートを開いたときに実行します。

場所	プロシージャ・関数名	目的	引数（型）	返り値（型）または実行内容	実行例	実行結果	実行結果の意味	補足
UserForm1	clearUserForm1	UserForm1（遅刻入力フォーム）の選択内容を「受付者」を除いてクリアします。	なし					
UserForm1	UserForm_Initialize	遅刻入力フォームを初期化します。	なし					フォーム起動時に一度だけ実行されます。
UserForm1	ListBox0_Grade_Click	遅刻入力フォームで学年が選択されたら名前を取得します。	なし					学年をクリック時に実行されます。
UserForm1	fillUF1Name	遅刻入力フォームの名前欄に名前を入力します。	なし					
UserForm1	ListBox1_Class_Click	遅刻入力フォームで組が選択されたら名前を取得します。	なし					組をクリック時に実行されます。
UserForm1	ListBox2_Number_Click	遅刻入力フォームで出席番号が選択されたら名前を取得します。	なし					出席番号をクリック時に実行されます。
UserForm1	CommandButton1_Input_Click	遅刻入力フォームで入力された内容をもとに遅刻記録を追加します。	なし					遅刻記録シートの最終行に遅刻記録が追加されます。
UserForm1	CommandButton2_time_Ajustment_Click	遅刻入力フォームで時刻の欄に現在時を入力します。	なし					時刻の更新をクリック時に実行されます。フォーム起動から入力まで時間が空いた場合に使います。

場所	プロシージャ・関数名	目的	引数（型）	返り値（型）または実行内容	実行例	実行結果	実行結果の意味	補足
UserForm2	UserForm_Initialize	UserForm2（遅刻記録の絞り込みフォーム）の起動時にフォームを初期化します。	なし					フォーム起動時に一度だけ実行されます。
UserForm2	CommandButton_Filter_Click	遅刻記録の絞り込みフォームで指定した条件をもとに遅刻記録を絞り込みます。	なし					絞り込むをクリック時に実行されます。
UserForm2	CommandButton_Break_Fileter_Click	遅刻記録の絞り込みを解除します。	なし					解除をクリアをクリック時に実行されます。
UserForm2	ComboBox_person_grade_Click	遅刻記録の絞り込みフォームで学年が選択されたら名前を取得します。	なし					テキストボックスをクリック時に実行されます。
UserForm2	fillUF2Name	学年・組・出席番号をもとに取得した名前を名前欄に入力します。	なし					
UserForm2	ComboBox_person_class_Click	遅刻記録の絞り込みフォームで組が選択されたら名前を取得します。	なし					組をクリック時に実行されます。
UserForm2	ComboBox_Person_Number_Click	遅刻記録の絞り込みフォームで出席番号が選択されたら名前を取得します。	なし					出席番号をクリック時に実行されます。
UserForm2	ComboBox_person_grade_Change	遅刻記録の絞り込みフォームで学年が変更されたら名前を取得します。	なし					学年の変更時に実行されます。
UserForm2	ComboBox_person_class_Change	遅刻記録の絞り込みフォームで組が変更されたら名前を取得します。	なし					組の変更時に実行されます。
UserForm2	ComboBox_Person_Number_Change	遅刻記録の絞り込みフォームで出席番号が変更されたら名前を取得します。	なし					出席番号の変更時に実行されます。
UserForm2	CheckBox_Person_Change	遅刻記録の絞り込みフォームで学年・組・出席番号が変更されたら、「組・番号で指定」のチェックを入れます。	なし					学年・組・出席番号の変更時に実行されます。
UserForm2	CheckBox_Grade1_Change	遅刻記録の絞り込みフォームで学年が変更されたら、「組・番号で指定」のチェックを外します。	なし					学年の変更時に実行されます。
UserForm2	CheckBox_Grade2_Change	遅刻記録の絞り込みフォームで学年が変更されたら、「組・番号で指定」のチェックを外します。	なし					学年の変更時に実行されます。
UserForm2	CheckBox_Grade3_Change	遅刻記録の絞り込みフォームで学年が変更されたら、「組・番号で指定」のチェックを外します。	なし					学年の変更時に実行されます。
UserForm2	CommandButton_Reset_Click	遅刻記録の絞り込みフォームの条件をリセットします。	なし					条件の取り消しをクリック時に実行されます。
UserForm2	TextBox_Day_Enter	日付を入力しようとしたら「日を指定」のチェックを入れます。	なし					日付の枠にフォーカス移ると実行されます。
UserForm2	TextBox_Day1_Enter	期間の開始日を入力しようとしたら「期間を指定」のチェックを入れます。	なし					開始日の枠にフォーカス移ると実行されます。
UserForm2	TextBox_Day2_Enter	期間の終了日を入力しようとしたら「期間を指定」のチェックを入れます。	なし					終了日の枠にフォーカス移ると実行されます。